

Q&A よくあるご質問

Q 電子薬歴と何が違うのですか？

A. 服薬指導中に薬歴の下書きが自動で作成されるのが大きな特徴の一つです。服薬指導後に追記するだけで薬歴を完了できるので、大幅な業務効率化が可能。またお薬の説明に加えて表示される健康アドバイスにより、服薬指導の充実にもつながります。

Q 今使っているレセコンとの連携は大丈夫でしょうか？

A. Musubiは日本薬剤師会が推奨する、薬局向けコンピューター間の連携システムであるNSIPS®に準拠しています。NSIPS®に対応しているレセコンとの連携が可能です。

*NSIPS®とは日本薬剤師会が提案する、薬局向けの各種調剤システムを連動させるための共有仕様です。
*NSIPS®は公益社団法人日本薬剤師会の登録商標です。(商標登録 第5214610号)

Q いま使っている電子薬歴から、データの引継ぎは可能ですか？

A. Musubiは「電子薬歴データ交換仕様に関する連絡協議会」(exPD)に加盟しています。exPDに加盟している電子薬歴からのデータ移行が可能です。詳しくはお問い合わせください。

Q IT機器の導入に不安があるのですが…

A. 事前の準備から当日の設置まで、専門スタッフが細かくサポートしますので、ご安心ください。

FAX 申込書

必要情報をご記入の上、FAXにて返送をお願いします。

ご希望内容に○	Musubiの資料希望・無料デモ希望・イベント情報希望・その他 ()
該当するご職業に○	薬局経営者・管理薬剤師・勤務薬剤師・その他 ()
お名前	
貴社名 (薬局名)	
電話番号	
メールアドレス	
住所 〒	

MK-DOHU-20210310

【個人情報の取扱いについて】

株式会社カケハシは、本申込書ご記入いただいた内容を下記目的で利用します。
・サービス向上のための情報提供
・開発提供しているサービスの向上、アフターサービスの提供向上、マーケティング、営業活動、統計情報の作成等

WEBからも承っております。
右記のQRコードからお申込みページにアクセスしてください。



Musubiは患者さん、そして従業員の満足度向上をアシストします。

これからの時代に必要とされる薬局像を想像してみてください。

調剤報酬の改定や継続的なフォローの義務化など、今まさに薬局も変化を求められています。

私たちが提唱する「薬局体験」には、患者さんに限らず、薬局で働く従業員の方の体験も含まれています。

患者さんへ価値を提供する従業員の皆様の働き方を改革することで、提供価値をさらに高められるのではないのでしょうか。

皆様が「選ばれる薬局」へと進化するために、Musubiは全力で応援します。

薬局体験向上には3つの要素が必要です

店舗状況の把握

従業員満足度

患者満足度

3つの要素が向上すると相乗効果で薬局体験が向上します



オンライン
セミナー

最新の業界動向をテーマにした内容や、薬局経営の課題とその解決方法など無料オンラインセミナーを、毎月開催中!

薬局経営に役立つ資料を無料プレゼント!



Musubiに関するお問合せ



KAKEHASHI



03-4405-0418
(平日10:00~18:00)

株式会社カケハシ
東京都中央区築地4-1-17 銀座大野ビル9F



主要取り扱い代理店 (50音順)

株式会社アステム
アルフレッサ株式会社
岩瀬薬品株式会社
株式会社ケーエスケー
株式会社シンリョウ

株式会社スズケン
株式会社タカゾノ
株式会社東名ソリューションズ
富田薬品株式会社
株式会社バイタルネット

患者満足と薬局の働き方改革を支援する

薬局体験アシスタント



Q.

今の服薬指導で、
もう一度患者さんは
来てくれるのだろうか?



A.

Musubiを使った
服薬指導で、
再来率が向上しました!



対人業務、服薬指導に課題をお持ちの
薬局関係者の皆さまに、
ぜひご覧いただきたい資料です。



患者さんの脱落を防ぐなら Musubi!

"患者の見える化"×"服薬指導の最適化"で再来支援サイクルを実現

ユーザーの声

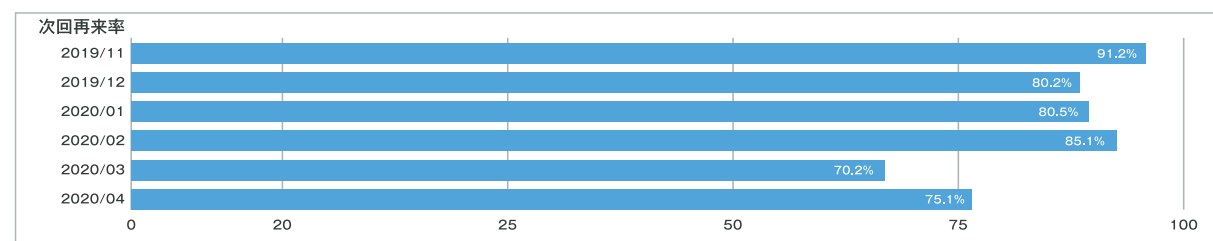
1.PLAN

Musubiで現状把握をカンタンに

一度来局した患者さんが、次に来局しているかどうかをカンタンに把握できたら良いのに…、と思ったことはありませんか?

Musubiの分析機能では、来局した患者さんのうち、再来患者さんが何人いるかという「次回再来率」をみることができ、新規患者さんがどれくらい脱落しているかを把握することが可能です。

※計算式：次回再来率=(「処方日数+30日以内」に再来した患者数)/(当該月の患者数)



再来率の表示例

Point!

Musubiなら、各店舗レセコンからデータを取り出して、集計して…といった手間が一切ありません。いつでもどこでも見やすいグラフで確認することが可能です。

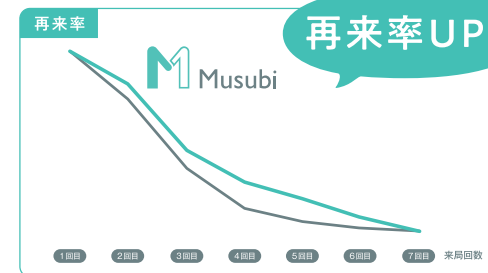
2.DO

Musubiでの服薬指導が再来率を向上!?

患者さんにお薬の説明をしても、ちゃんと理解してくれたか不安だな…、と感じることはありませんか? Musubiなら、患者さんごとに最適化された指導文やイラストつきの健康アドバイスによって、視覚的な情報によって患者さんとコミュニケーションができるため、より理解を深めることが可能です。



Musubiの画面を見せる服薬指導により患者再来率向上が示唆されました



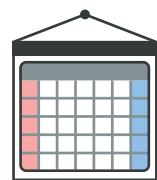
詳しくはこちらのページをご覧ください



他にも、患者さんが来局したタイミングの服薬指導時に「次回受診予定日」を聞き取りすることや、次回来局予定日前後で患者さんに受診・来局忘れ防止連絡を実施することも、再来率向上の取組みとして効果的です。

4.ACTION

まだ再来していない患者さんの状況確認を



まだ、再来していない患者さんに対して、電話やフォローアップツール等で状況確認をするなど、具体的な行動を起こすことは、患者さんの脱落を防ぐことにつながります。

再来率向上のためのPDCA

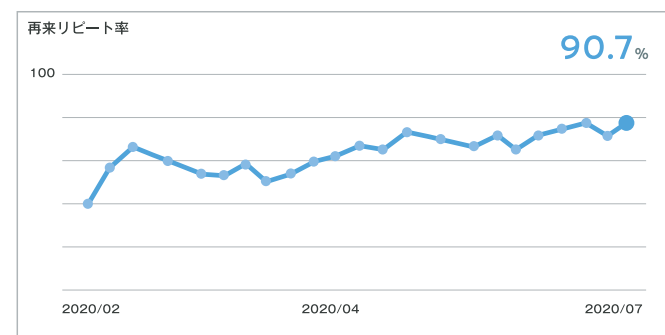
3.CHECK

Musubiで再来状況をカンタンに把握

Musubiで画面を見せての服薬指導や他にも施策を実施したら、効果検証を確実に実施することが大切です。

これまで(過去)の再来率を把握することに加え、現在の再来率の状況がどうなっているかをより早いタイミングで確認することで対策が可能になります。Musubiは「再来リピート率」という指標によって、当月再来予定の患者さんのうち何%の患者さんが実際に再来したのか?を確認することが可能となります。その指標を見ながら、なぜ再来率が100%にならないのか?を考えながら次のActionを考えることが可能です。

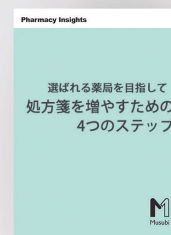
計算式：「再来リピート率」=(月ごとに来局した再来患者数)/(対象月の前月の累計患者数)



再来リピート率の表示例

お役立ち資料ダウンロードのご案内

- 選ばれる薬局を目指して - 処方箋を増やすための4つのステップ



新規に来局された患者さんの脱落を防止することで再来率を向上させることは、薬局の収益改善に非常に重要です。この方法以外にも、薬局の売上を向上させる取り組みや考え方にご興味がある方は右側のQRコードから無料のお役立ち資料をダウンロードください。

資料ダウンロードはこちら



薬歴がラクになり、服薬指導では患者さまから感謝の声が

なぎさ薬局 所在地:神奈川県横浜市



導入後の変化として、コミュニケーションがこれまで以上に充実していることが大きいですね。服薬指導のときに、画面に出たイラストをお見せしながら患者さんに説明できるのが便利です。患者さまから「わかりやすい」という言葉をいただくこともあります。服薬指導の際、以前はより丁寧に伝えようと下調べに時間をかけていましたよ。今ではMusubiがあるので下調べの時間はなくなりましたし、Musubiが側にあることで精神的な負担も減りました。

印象的だったのは、Musubiの「健康アドバイス」の効果。ドライアイの患者さまがよくいらっしゃるのですが、「ホットタオルなどで目を温めるとドライアイの症状が和らぎます」というアドバイスをお伝えしてみたんです。すると、その患者さまが次にお越しになった際に「やってみたら本当に目がラクになった。ありがとう」と。Musubiを使った服薬指導をきっかけに、新しいコミュニケーションが生まれました。今後は私たちが一番大事にしている患者さまとの交流をもっと進めていきたいと思っています。地域の人に頼られる存在でありたいと思いますし、お薬を受け取るためだけでなく、もっと気軽に、もっとカジュアルに利用してもらえる薬局を作っていきたいですね。

DOで変わる薬局体験

Musubiをつかった服薬指導で生まれた、患者さんからの「ありがとう」

コロナ以降、来局していない患者さんへのアプローチが可能に!

千歳調剤薬局 所在地:新潟県新潟市



今後、より注視していかなければならないと考えているのが、患者さんの「再来率」です。Musubiがデータを出してくれるようになったことで、「なぜ再来率が100%にならないのか?」と考えようになりました。いらしていない患者さんは治癒したのか、それとも治療から脱落してしまっているのか、どちらなんだろうと。もしかしたら、今この瞬間にも正しく薬が飲まれていないのかもしれないという、その不安に改めて気づかされたんです。そこで全て数字に落とし込んで、改めて管理薬剤師に「実はコロナ以降これだけの患者さんが脱落している可能性がある」と伝えました。具体的なデータを目の当たりにして現場もショックだったようで、まずハイリスク薬を処方されている患者さんから分析したり、最近いらしていないと思われる患者さん一人ずつ状況を追跡することで、患者さん一人ひとりのお顔が見えるところまで辿りつきました。今後はその範囲をハイリスク薬からさらに広げていき、この動きを継続していくことが大事だと考えています。服薬期間中フォローにも本格的に着手していきたいですね。

CHECK→ACTIONで

変わる薬局体験

Musubiでデータを見える化することで、次の一手につながりました